

2021年度事業報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

認定特定非営利活動法人
横浜日独協会

1. 事業の成果

横浜日独協会の日本とドイツ両国の相互理解を進める草の根交流は11年目となり、高い公益性とコンプライアンスが求められる認定NPO法人として2年目を迎えたことから、これからの10年後を見据えて活動を積極的に展開していくため、中長期ビジョンを策定した。

中長期ビジョンの策定にあたっては、従来の日独交流の取り組みを一層充実するとともに、市民活動としてのさらなる広がりを展望し、また日独交流を取り巻く環境の変化に対応し、当協会の役割を踏まえた中長期的な視点に立った指針を示した。

2021年5月の総会において、横浜日独協会の設立以後10年間当協会の発展に尽力された前会長は退任し名誉会長に就いた。合せて新会長の就任、副会長1名の増員、新理事2名の就任ならびに新横浜市長の名誉顧問就任など、組織の強化に取り組んだ。

新会長による新体制のもと、グローバルな視点を持ち日独関係の進展に貢献する人材育成を必要とし、協力的な組織風土や良好なコミュニケーションを大切にしながら、ドイツ関係諸団体に止まらず、外部の各種団体・組織とのネットワークをさらに広げ、ダイバーシティや環境問題等への先進的な取り組みが進むドイツと、民間交流によりその絆を強め、相互信頼を深めていくことを表明した。

本年8月、国際関係など様々な分野で活躍し、日本と世界を平和に顕著に貢献した人を表彰する外務大臣表彰を当協会の名誉会長が受賞したことは大きな喜びであり、その評価された活動時期が協会設立後の10年間と重なったことから喜びを共有した。

2021年は日独交流160周年記念の年であり、また横浜フランクフルト友好都市10周年記念の年として、各イベントを記念事業とし開催した。財政面に関わることとして、横浜市建築局との協働事業に対して、ドイツ大使館から助成金を受けられたことは大きな成果だった。また、本年度も税制優遇のメリットをアピールして幅広く呼びかけた寄附活動は、目標額を下回ったものの活動基盤を支える資金獲得に大きな意義があった。法人会員の拡大においては、新規加入法人として日独両国間の緊密な経済協力振興を目的とする非営利公益団体が加わった。

当協会の事務局を横浜市栄区のあーすぷらざ内事務室に置いて2年目となり、事業報告書等の市民への閲覧をはじめ、共有スペースを活用して各種イベントや毎月の理事会あるいは総会など、オンライン配信のキーステーションともなっているが、入居契約2か年の期限を本年度末に迎えることから、事務室の入居契約の更新申請を行った。

本年度も前年と同様、新型コロナ感染拡大の状況下で、新たな生活スタイルに合わせた日独交流をめざした。会員はもとより多くの市民や企業の多様なニーズ、幅広い分野での交流、日独交流の取り組みの発展・深化と市民活動の一層の広がりなどが求められていることから、これまで着手した事業の進捗状況と成果を踏まえ、当協会ならではの交流の実施と相互理解に取り組んだ。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 日独相互理解事業

プロジェクト①日独相互理解 プロジェクト②日独情報の相互普及の強化

日本とドイツの文化・教育・芸術・歴史などの分野においては、2021年が日独交流160周年記念の年にあたり、また、横浜フランクフルト友好都市連携10周年と重なり、各種イベントを記念事業として開催した。当協会が本年度の主要事業として計画した日独交流大茶会（於、三溪園）は、新型コロナ感染拡大のために開催できなかった。

一方、コロナ禍での対面形式のイベントの多くは実施できなかったが、インターネットを活用したオンラインコンサートやオンライン講演会などの機会を積極的に設けることによって、新たな生活スタイルが定着しつつあることも本年度事業の特徴だった。文化委員会が主催する「百人一首を読む会」もオンラインで行っていたが、環境の影響されることなく毎月安定的に開催され、参加者も毎回約20名を維持していた。ただし郊外行事は、予定した計画がコロナの感染急増の影響で中止となった。

オンラインイベントの開催にあたっては、インターネットの環境が整っている当協会の事務室があるあーすぷらざ内の共有スペースを活用し、安定した配信状態を維持することができた。

(2) 日独関係団体連携事業

プロジェクト③日独関係諸機関、団体などとの連携強化

多様性のあるネットワーキングを強化し、協会の枠をさらに広げたネットワークづくりや若者の参加を支援し、多くの市民とのオンラインを中心に対話を継続するとともに、全国日独協会連合会、日本各地の日独協会、フランクフルト独日協会、ハンブルク独日協会、バイエルン州駐日代表部、ノルトラインヴェストファーレン州などとの交流と連携強化を目指して活動した。

ドイツ在住ピアニストの神奈川県民ホールにおける横浜フランクフルト友好都市10周年記念コンサート」を、ドイツのメツラーバンクの協賛を受け、日独産業協会 DJW とともに共催した。

横浜市中区にある根岸外人墓地での戦没ドイツ兵士墓前祭に、ドイツ大使館武官、地

元有志、地元小学生などと共に参加した。

駐日ドイツ大使館の日独交流 160 周年記念に関わる事業の一環として、当協会と横浜市との協働事業に対し協賛の補助金を受けることができた。

本年度の新規加入法人会員として日独産業協会（DJW）が加わったが、同時に横浜日独協会も同会の会員として加入し、日独間のより一層緊密な連携体制をとることができた。

(3) 日独経済情報普及事業

プロジェクト④地域在住中小企業支援

横浜市内はもとより神奈川県内の中小企業を対象に科学技術・情報・イノベーション分野のドイツ企業の実情についてセミナーなどをとおして情報提供するとともに、在日ドイツ系企業との連携をすすめた。

本年度は、横浜市が推進するカーボンニュートラル活動に協力して、地域建設関連事業者を対象に横浜市建築局との合同オンラインセミナー「建築環境セミナー2021」を開催した。セミナーは講演及び技術講座の2部構成で参加申込者が期間限定で視聴する

YouTube 配信とした。期間中の視聴参加者は 440 名であった。講演は日独交流 160 周年、横浜市フランクフルト市パートナー都市 10 周年を記念し「環境先進国ドイツの省エネ住宅パッシブハウス」をテーマとした。このたびの事業に対して駐日ドイツ大使館から協賛が得られた他、日独産業協会共催、横浜企業経営支援財団後援を得たことは日独連携に有益であった。このセミナーの動画は 2022 年 2 月に YouTube チャンネル「よこはまにちどく」にアップし、視聴は無料公開とした。また横浜日独協会及び横浜市ホームページにもリンクを貼り視聴者の拡大を図った。

本年度は特に、当協会の Youtube チャンネルへの動画「世界最大のパッシブハウス」のアップ、会報及びホームページへの「脱炭素とグリーン革命」をテーマにした連載記事の掲載など、多くのドイツ情報を提供するとともに、在日ドイツ系機関との情報交換や法人間交流がオンライン開催に移行する中で、日独産業協会 DJW、ジェトロ、NRW 州などドイツ関連オンラインセミナー、日独産業フォーラムなどに参加した。

(4) 日独青少年交流事業

プロジェクト⑤次世代人材育成・日独青少年交流

若者を中心にグローバルな次世代人材育成を目指して協会内にヤングクラブを置き、ユースフォーラムなどの開催を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せない中、多くは開催が困難だった。

高校生作文コンテストの派遣事業についても、出入国管理の強化など状況不安のため、フランクフルト側からの高校生受け入れと、当協会からの高校生派遣ともに中止となった。

SNS などを活用したネットワークの強化への取り組みでは、季刊の会報 DER HAFEN の発

行を機会に、ヤングクラブメンバーにお知らせメールを送ることでコンタクトを図った。
併せてメールアドレスの確認とリストをアップデートすることができた。

3. 事業の実施内容

《特定非営利活動に係る事業》

事業	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
(1) 日独相互理解事業 (①相互理解・ ②情報相互普及強化)	・日独交流 160周年記念事業の日独交流大茶会はコロナ感染拡大のため中止とした。					
	<p>・市民・県民および地域在住ドイツ人を対象に、日独の相互理解を深めるための文化・芸術など交流を目的にオンラインまたは対面形式による講演会・音楽会・セミナーなどを開催した。</p> <p>・文化委員会文化活動(百人一首を読む会)を実施したがコロナ感染急増の影響で中止とした。</p> <p>・横浜スカートクラブ(未実施)</p> <p>・オクトーバーフェスト(コロナ禍のため中止)</p> <p>・クリスマスマーケット後援</p> <p>・クリスマスパーティー開催</p> <p>・個人・団体などが開催する事業の後援などを行った。</p>	<p>4/5/6/7/9/10/11/1/2/3月(オンライン開催)</p> <p>12月ドイツ在住バイオリニスト・ニュルンベルク通信(会報掲載)</p> <p>毎月(オンライン開催)</p>	<p>横浜市内および県内各地/あーすぷらざ(オンライン配信ホスト配置等)</p> <p>横浜市都筑区主催 横浜市中区 東京都渋谷区</p>	13人×12回	ドイツに関心のある横浜市民及び市内在住ドイツ人など 630人	655,758円

<p>(2)</p> <p>日独関係団体連携事業(③関係機関・団体連携強化)</p>	<p>市内・県内の日独関連諸団体との各種イベントの共催や諸行事への参加をとおして、日独交流を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ在住ピアニストによるコンサートの共催(横浜フランクフルト友好都市10周年記念コンサート) ・横浜を訪問する独日協会会員(フランクフルト市、ハンブルク市など)と市民との交流は来日が困難となり実施なし。 ・根岸外人墓地墓前祭(対面開催、戦没ドイツ兵士墓地、ドイツ大使館他関係者多数参加。横浜の歴史を語り継ぐため、地域自治会、小中学生等との協働) 	<p>3月</p> <p>11月</p>	<p>横浜市 内/県 内各地</p> <p>神奈川県 民ホ ール</p> <p>横浜市 中区</p>	<p>5人×6 回</p>	<p>市民及び市内在住ドイツ人と諸団体並びに関係者など 200人</p>	<p>55,701円</p>
<p>(3)</p> <p>日独経済情報普及事業(④地域中小企業支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市内・県内の中小企業を対象に、日独相互の技術交流・情報交換などに関する機会を提供した。日本とドイツのエネルギー問題を主なテーマとした。 ・建築環境セミナー2021「ドイツのパスシブハウスに学ぶ」をオンライン形式で開催した。(横浜市建築局との共催) ・中小企業支援財団、横浜商工会議所、ジェトロ、日独産業協会などとの連携を行った。 ・ドイツ系法人会員の拡大、会報への記事掲載などによる広報活動の充実に取り組んだ。 	<p>4月、7月、10月、1月(発行の会報に情報掲載)</p> <p>12月(Youtube動画セミナー参加者のみの限定公開)</p> <p>通年(オンラインセミナー等への参加)</p> <p>4月、7月、10月、1月(発行の会報に掲載)</p>	<p>横浜市 /県内</p>	<p>3人×12 回</p>	<p>在横浜ドイツ系企業と日本企業関係者など 400人</p>	<p>161,930円</p>

(4) 日独青少年交流事業 (5)次世代人材育成・ダイバーシティ・日独青少年交流	・フランクフルト側からの高校生受け入れ、横浜からの派遣は双方ともにコロナ感染拡大のため中止となった。 ・前年度作文コンテスト優秀者の表彰式の模様を4月発行の会報及びホームページに掲載した。	4月	全国	5人×1回	300人	26,257円	
	・市民と市内在住ドイツ人を対象に、日本とドイツの若者が日独両国の協力、交流体験を交え、将来の方向性を話し合い、親睦を深める機会になる日独ユース女性フォーラムはコロナ禍のため実施できなかった。						
	・ヤングクラブと全国のヤングクラブによるSNSなどを活用したネットワークを広げるため、各種オンラインイベント案内を配信した。	通年	日本国内／ドイツ国内	3人×4回	160人	0円	
	・日独交流160周年／ドイツ文化紹介ワークショップ（あーすぷらぎとの共催）は、コロナ感染拡大のため計画化できなかった。						
	・大学祭などでのドイツ文化紹介を行う予定だったがコロナ感染拡大のため未実施。 ・ドイツ人留学生の東京オリンピック2020でのボランティア活動を支援した。	8月	東京都新宿区				0円